

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

JULY 2017 vol.39

なべたしんめいしや

鍋田神社

所在地：弥富市鍋田町

交通：弥富市コミュニティバス

「鍋田」停南東約1.3km

弥富市にある鍋田干拓地は、尾張藩などの出資により江戸時代から新田開発が進められてきました。1837(天保8)年頃には、八穂新田、六野新田、上野新田が開発されていますが、度重なる水害にも悩まされ、嘉永7(1854)年の安政東海地震では堤防や田畑が沈下、安政2(1855)年の水害では堤防が決壊して120戸中116戸が流出し、30名の死者を出すこととなり、その後、復旧が断念され放置されてきました。

戦後、食糧増産などを目的として、国の直轄事業として本格的に干拓事業が行われ、昭和32(1957)年に第一期の入植者が現地に入植し、昭和34年には営農を開始し、その年の秋には、入植後最初の収穫を迎えるはずでしたが、収穫を目前に控えた9月の終わりになって、史上最大級ともいわれる伊勢湾台風が襲来します。高潮などにより堤防の95%が決壊した鍋田干拓地では、全域が水没することとなり、住宅地や耕地は壊滅し、318名の在住者のうち133名が犠牲となるなど、甚大な被害を受けます。

この伊勢湾台風の犠牲者の慰霊のため、10周年記念事業の一つとして、昭和44年に鍋田神社が造営されました。神明社には現在、伊勢湾台風殉難之碑と伊勢湾台風殉難者慰霊観音が安置されています。



伊勢湾台風殉難之碑(右側)

伊勢湾台風殉難之碑の碑文には「伊勢湾台風の犠牲となり給わりし人々のご冥福を祈り、鍋田干拓地の安全と繁栄、この地に居住されるすべての人々の真の幸福を祈る」旨が記載されており、亡くなった133名の氏名が刻まれています。また、伊勢湾台風殉難者慰霊観音には、観音像を安置することとなった経緯として、観音像には犠牲者の慰霊とともに、生存入植者の激励の意味も込められていること、犠牲者ゆかりの地の土を陶土に混ぜ、常滑市の陶芸作家に観音像の製作を依頼したこと、観音像自体は昭和38年に贈られたが、十三回忌にあたりこの地に観音堂が建立されたこと、などが記されています。

伊勢湾台風後の復興に向けた取組は被災後ただちに開始され、昭和35年には堤防が復旧します。復旧後の堤防は海岸堤が高さ6.3mのオランダ式のものとなり、大きく改良されます。集落は第二線堤防(本堤とは別に集落を守るために設けられた堤防)で囲まれた、干拓地北西角の微高地に集められ、鉄筋コンクリート造の耐災住居も造られました。また、東側の2期工事の予定区域は公共用地とされ、名古屋競馬組合の弥富トレーニングセンターや弥富野鳥園が整備されています。

新田開発により低地が広がったこの地域では、復興計画において、高台がない中での集団移転として、干拓地内の微高地への移転と、それを第二線堤防で囲む工夫をしており、現在でもその名残を目にすることができます。



伊勢湾台風殉難者慰霊観音



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。





◆ 鍋田神明社の周辺には…

● 伊勢湾台風殉難之塔

所在地：弥富市西末広町

交通：弥富市コミュニティバス「西末広」停西約800m

伊勢湾台風殉難之塔は、各地に建立されている慰霊施設の中でも、ひととき高いものです。頂上には青銅製観

音像が安置され、両側に、明像（母親が流木の間から愛児を抱き上げ頬ずりして喜ぶ像）と暗像（父親が、青年に成長した変わり果てたわが子を自衛隊員の助けを得て収容している像）が彫塑してあります。碑文には悲惨な被害の様子と塔の建設理由が記されています。



● はっぼじぞう 八穂地蔵

所在地：弥富市鍋田町

交通：弥富市コミュニティバス「鍋田」停北約250m

現在の鍋田新田の一部にあたる八穂新田は、江戸時代の末から干拓が行われましたが、水害により何度も破堤を繰

り返し、嘉永7（1854）年の安政東海地震と翌年の暴風雨により亡所となったとされています。地蔵は20年後に引き揚げられたもので、干拓を築き上げた先人の偉業の歴史を物語るものとして、弥富市の文化財に指定されています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 海南こどもの国金魚まつり

弥富市では、150年ほど前から金魚の飼育が始められ、現在では市販されている金魚のほとんどの種類を生産し、中でも高級金魚の産地として全国に知られています。流通拠点としても我が国有数の市場で、日本にいる金魚の全品種である約25種類がすべてそろう一大産地となっています。（2015.4月号参照）



海南こどもの国 HP より

鳥ヶ地町にある海南こどもの国では、毎年7月に金魚まつりが開催されます（平成29年は7月1日、2日）。まつりでは、金魚すくいや、池に放された金魚をつかまえるイベントが行われるほか、2日目には金魚すくいの大会も行われ、優勝者には金魚飼育用水槽セットが贈られます。

7月のあいちの花

平成29年7月のあいちの花は小菊です。小菊は観賞用の小さな花をつけるキクの一品种群で、主に中



懸崖作り（一般財団法人国民公園協会 HP より）

山間部などで栽培され、摘芯をする（茎の先端の芽先を摘み取ることで、複数の芽に分かれる）ことで多くの小花が咲きます。

丈夫で芽吹きがよく花付きもよいため、直幹、懸崖、筏吹などの盆栽仕立てが行われ、高さ3～4mにも及ぶ大懸崖も見られます。

● ブレイクタイム ●

♪ 弥富野鳥園

弥富野鳥園は、野鳥の保護思想の普及啓発を図るため、昭和50年に鍋田干拓の一角に造成されました。園内には、野鳥観察が身近にできる小公園のほか、保護地には樹林地、芝池、池、草原などが設けられ、様々な野鳥が生息できる環境が整備されています。

本館には、自然の中での野鳥の生態を再現したジオラマや、猛禽類から小鳥類まで様々な種類の剥製、鳥類のカラダの構造などを分かり易く解説した骨・羽根展示があります。また、展望室には大型双眼鏡が設置してあり、オオタカやカワウなど、園内の野鳥を観察することができ、土日祝日（6～9月の土曜日を除く）には、日本野鳥の会愛知県支部の観察指導員による解説を聞くことができます。



弥富野鳥園 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成29年7月）

